

6年連続で太鼓台同士の鉢合わせが発生している現状を踏まえ… vol. 2

先月号に引き続き、太鼓台の平和運行に向けた取り組みについてお知らせします。先人から受け継いだ伝統文化を次の世代に伝えていくためにも、事故のない楽しい太鼓祭りを実現しなければなりません。楽しいお祭りとは、太鼓台の勇壮華麗さを競うものであり、太鼓台の鉢合わせや人のけんかにより負傷者が出るものではないことを、全ての市民の皆さんに認識していただきたいと思っています。

▼太鼓台運営の現状

太鼓台の平和運行を考える前に、各地区の太鼓台がどのような形態によって運営されているのか、知っていただきたいと思っています。

市内には、今年5月現在で53台の太鼓台があります。それぞれの太鼓台は、原則、所有する自治会員の合意などを得て製作されており、いわば自治会の貴重な財産の一つです。

各太鼓台は、自治会員が中心となって太鼓台運営委員会などを組織し、運営管理が行われています。

また、各太鼓台は市内9地区（船木、角野、泉川、中萩、川東西部、川東、下郷・又野・松神子、川西、大生院）の各地区太鼓台運営委員会（協議会）に原則所属しており、そこに運営委員などを派遣しています。

各地区太鼓台運営委員会（協議会）は、各種申し合わせ事項などを決定し、所属する太鼓台の運行を統制する権限を持っています。

しかしながら、ここ数年の祭りの状況を振り返ると、申し合わせ事項に違反し、鉢合わせ行為を行う太鼓台が発生するなど、残念な事態が続いています。

このような事態に対し、各地区太鼓台運営委員会（協議会）は、今後の対策について大変苦慮しているのが現状です。

秋祭りの実施のために、ほぼボランティアのような形で、長時間苦勞をしながら運行計画を立案したり、太鼓台の維持管理に従事したりしている人たちの努力が、まさに水の泡になっているような状況です。このまま

では、これらの貴重な人材を失う結果となってしまいます。

▼今年を「平和運行元年」に

新居浜の太鼓台は、長さ約12メートル、高さ約5.5メートル、重さは約3トンであり、統制を失うと動く凶器と化してしまいます。負傷者を出すような鉢合わせは、絶対に起こしてはなりません。

今年は、新居浜市が市制施行80周年を迎える、まさに記念の年です。10周年ごとの恒例行事となっている太鼓祭りイベントの準備も、関係者によって進められています。このイベントは、市制施行80周年を市民や観光客が一体となって祝うものです。去年までに6年連続で鉢合わせが起こっている状況ですが、市制施行80周年を契機として、今年を「平和運行元年」とできるよう、私たち市民一人一人が「鉢合わせは

絶対に起こさない、起こさない」と認識し、心掛けていきましょう。

お祭りの目的は、豊年の秋を神様に感謝するものです。先人から受け継いだ太鼓祭りの伝統を次の世代に引き継げるよう、また、豪華絢爛な太鼓台がこれからも「新居浜の誇り」であり続けられるよう、皆さんのご協力をお願いします。

